

主 題：神の恵みのすばらしさ

聖書箇所：詩篇 8篇

アーヴィン・ブーズネッツ博士：アメリカ・カリフォルニア州・サンバレーにあるマスターズ神学校の副学長として福音的教会のリーダーを養成する働きに携わるブーズネッツ先生は、単に学問の世界における第一人者であるだけでなく、現在も教会（グレイス・コミュニティー・チャーチ）の長老として地域教会のリーダーシップを担っておられます。

こうして皆さんとともにいる喜びを感謝しています。皆さんのこの美しい国を訪れることができるのは私たち夫婦にとって初めての経験です。新しい国に行って一番の喜び、感動はそこに住んでおられるクリスチャンの皆さんと交わりをもつことです。数年前に、近藤先生、岡田先生、そして、クリス・モーティマー兄の三人を私の生徒として迎えることができたことをうれしく思っています。彼らとともに時間を過ごすことができることは大きな特権です。近藤先生についてひとつ思い出に残っていることは、彼を私たちの神学校のチャペルにお招きして話を聞いたときのことです。そのとき、彼が話したことは、彼自身が神の働きのために、いつでもどこでもどんな犠牲を払っても献身して行くことを誓ったということでした。それは私にとっても、また、神学校の家族皆にとっても、今も献身の良い模範であり続けてくださっていることを、皆さんにお伝えしたいと思います。

今朝、詩篇の8篇をお開きください。神の恵みのすばらしさ、偉大さを見て行きましょう。ここでも、また、アメリカにおいても同じだと思いますが、私たちが何かに親しみを持つほどに、それに関する観念が下がってしまうことがあります。それがどんなに高価なものであっても、私たちにたくさん与えられていると、何でも無いもの、それほど価値のないもののように捉えてしまうことがあります。あつて当然のものと考えます。そのことを聖書に当てはめたとき、私たちはこの詩篇ほど、そのような攻撃を受けている書はないのではないかと思います。皆さんは聖書の中でどの書を一番多く読まれますか？ほんの数分しか時間がないとき、皆さんはどの書に目を向けるでしょう？もし、皆さんが私と同じようであるなら、きっとこの詩篇を開けるのではないかと思います。けれども、どれほど時間をかけてこの詩篇を学ぼう？私たちはこの詩篇をしっかり学ぶ必要があります。なぜなら、その詩篇の頁の上にはたくさんの真珠が積まれているからです。できるだけ手を伸ばして掴めるだけの真珠を掴もうとするかもしれませんが、今朝、私は皆さんといっしょにシャベルをもって、その表面だけでなく下までしっかり掘り下げて、そこにあるすばらしい多くの宝を見て行きたいと思います。私たちが詩篇を好んでよく読むその理由は、ここに書かれてあることが非常に実践的であるからです。神の偉大さ、神のすばらしさが私たちの毎日の生活に関わりがあるように書かれているからです。私たちがそれを読むとき、その著者が私たちと余り変わらないことを見ます。著者はある時は金持ちであり、ある時は貧しく、ある時は愛されており、ある時は憎まれていました。彼は迫害され、彼は人から誉れを受け、時に悔い改め、時に神からの喜びを十分に受けているような人たちです。詩篇は神に対する敬虔さ、神に対する献身を、私たちに模範として示してくれます。詩篇の著者たちは神と語っています。そして、私たちはそのことばに耳を傾ける特権に与っているのです。これはまるで著者たちの日記を読んでいるようなものです。彼は自分の心を開いて自分の思いを人々に告げて、彼の情熱を人々に告げ知らせしているのです。

今日、皆さんといっしょに見て行く8篇は、著者が受けた神の恵みのすばらしさ、神が与えてくださった救いのすばらしさを称えて、そのすばらしさを開いて行くというものです。そして、これは神が私たちに対して何をしてくださったのかということ私たちに教えるものでもあります。そして、私たちがいかにそれを受ける価値がないのかを告げています。

1節ではこの詩篇の序文が始まります。彼は「**私たちの主、主よ。あなたの御名は全地にわたり、なんと力強いことでしょう。**」と言います。この1節の部分はこの詩篇全体を要約しています。これがこの詩篇の中心的な焦点であることを私たちは9節でもこのことばが繰り返されていることから知ることができます。9節「**私たちの主、主よ。あなたの御名は全地にわたり、なんと力強いことでしょう。**」と。この節においてダビデは「神の偉大さ」について二つのことを告げます。初めにダビデはこのすばらしさ、力強さのタイトルを教えます。そして、その力強さがどこまでカバーするのか、その範囲を教えるのです。

☆神の偉大さについて

1. 力強さのタイトル

彼は「**私たちの主、主よ。**」と言って始めます。このヘブル語で書かれている最初の「**主**」は2番目に出

てくる「主」と違うことばが使われています。日本語の聖書では2番目になっていますが、「主よ」と太字で書かれていることばは、ヘブル語ではヤーウェーということばが使われています。これは神がどのようなお方かというその特徴を表わし、神がだれなのかということを表わすことばです。これは神の個人的な名前です。他のどの国でも神がこの名前をもっていることはありません。この名前には二つの意味があります。神は永遠に存在するお方であり、そして、永遠に側にいるお方であるということです。神は常におられ神は常に私たちの目の前に存在しておられるのだということです。別の言い方をすれば、神はわたしが存在する限りわたしはあなたとともにいると言われるのです。創世記15章を見てください。創世記12章で神はアブラムをご自身のもとへと召されました。そして、彼を偉大な国にするという約束を与えられました。そして、その約束を15章で正確な契約としてアブラムと結ばれたのです。契約を結ぶ姿がこの15：10以降に記されています。そして、この契約を結ぶために神は鳥や動物を集めることを言います。この時代、二人の男性が契約を結ぶとき、動物を半分に分けたわけです。12節で神はそこでアブラムを深い眠りにつかせたとあります。「**日が沈みかかったころ、深い眠りがアブラムを襲った。そして見よ。ひどい暗黒の恐怖が彼を襲った。**」、契約を結ぶとき、二人の人物は切り裂いた動物のからだの間を通り抜けることが通例でした。それをするによって、歩いている二人の人物が生き残る限りこの契約が有効であることを宣言しているのです。けれども、もしそのうちの一人が死ぬならその契約は有効性を失うということを表わしています。けれども、12節を見て分かるように、神はアブラムを深い眠りに落とします。そして、17節を見ると、神だけがこの二つに切り裂かれたいけにえの間を通って行かれるのです。「**さて、日は沈み、暗やみになったとき、そのとき、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、あの切り裂かれたものの間を通り過ぎた。**」と。18節を見ると「**その日、主はアブラムと契約を結んで仰せられた。**」とあります。ここで見て分かるように、神だけが二つに切り裂かれたいけにえの間を通られたのです。それゆえに、神が生きておられる限りこの契約は有効なものであることが証明されているのです。

出エジプト記3章を見てください。この箇所は神がミデヤンの砂漠でモーセを呼び出すところです。モーセはそこで神に言い訳をします。私は行きたくない、だれか他の人を見つけてくださいと…。モーセは神に「**今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました。』**」と言え、彼らは、「**その名は何ですか。』**と私に聞くでしょう。私は、**何と答えたらよいのでしょうか。**」（3：15）と聞きます。14節「**神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある。』という者である。」**また仰せられた。「**あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところへ遣わされた。』**と。」この『わたしはある。』というそのことばがヤーウェーという神の名前の動詞の形です。別の言い方をすれば、人々に対してヤーウェーが私を遣わしたと、そのように言いなさいと告げておられるのです。すべてのイスラエル人たちはこの名前のすばらしい力をよく知っていました。新約聖書ではヨハネ8：58でパリサイ人たちがイエスに「あなたはだれか？」と問いかけたとき、イエスは「**…アブラムが生まれる前から、わたしはいるのです。**」と答えます。これが神がモーセに言った『わたしはある。』ということばと同じことばなのです。アブラムが生まれる前からわたしはいるのですと言っているのです。パリサイ人たちはそのことばを聞いたとき「**彼らは石を取ってイエスに投げつけようとした**」（8：59）のです。なぜなら、イエスが語ったことばの力、その偉大さを彼らはよく理解していたからです。その後、ゲッセマネの園でイエスが祈られたときに、兵隊たちがやって来てイエスを捕まえようとしてきました。彼らに対していったいだれを求めているのかと問いかけたとき、兵たちは言いました「**ナザレのイエス**」と。そして、その時イエスはご自身で「それはわたしです」、I AM、わたしはある、わたしです、と言われました。すると、人々は地に倒れました。ヨハネ18：6-8「**イエスが彼らに、「それはわたしです。」**と言われたとき、**彼らはあどすさりし、そして地に倒れた。：7**そこで、**イエスがもう一度、「だれを捜すのか。」**と問われると、**彼らは「ナザレ人イエスを。」**と言った。**：8** **イエスは答えられた。「それはわたしだと、あなたがたに言ったでしょう。もしわたしを捜しているのなら、この人たちはこのままで去らせなさい。」**と。

このヤーウェーという名前は、神のタイトル、神がいったいどのようなお方であるのかを凝縮したものです。このお方は常に存在され、そして、常に側におられるお方です。

2. 力強さの範囲

2番目にヘブル語で出てくる「主」ということば、日本語の聖書では最初に出ている「主」ですが、それはヤーウェーとは違うことばです。ここではアドナイということばが使われています。初めのヤーウェーという名前は神の特徴を表わすことば、神がどのようなお方かを表わすことばでしたが、この2番目の「アドナイ」は神がどのような立場におられるのかということを示すものです。これは神がどのような役割をしているのか、神が主であり支配者であることを表わしているのです。この二つの神の名前とタイトルによって、この詩篇のアウトラインが構成されます。この詩篇では繰り返して神がだれで

あるのか、神がどのようなことをされるのかということを示します。そして、その後で、私たち人間がどのような者であり、何をしなければならぬのかということが告げられているのです。ですから、この神に関する二つのタイトルの中で、神の力強さを表わすタイトルが記されています。そして、次のフレーズでは神の力強さがいったいどこまでのものか、その範囲が示されています。「**あなたの御名は全地にわたり、なんと力強いことでしょう。**」と。神の力強さ、神の偉大さというものはあらゆるところで示されています。この「**力強い**」と訳されていることばはそのすばらしさが溢れ出ている、どこまでも広がっているその姿を現わします。それはまるで洪水のように水をどこにも留めて置くことができない、そのような状態と同じなのです。ローマ人への手紙1章では神の被造物は神のすばらしさをあらゆるところで現わしていると言います。イザヤ書6章では神のすばらしさ、神の栄光はこの全地において現わされていると言います。そして、この1節の最後でダビデは神の力強さ、すばらしさについて二つのことを教えています。

1) 神の偉大さは宣告によって現わされている

そして、人々が宣言することによっても現わされています。1節の最後と2節がそのことを告げます。

(1) 天において現わされている

ダビデは最初に天におけるすばらしさを現わすことをします。「**私たちの主、主よ。あなたはご威光を天に置かれました。**」と。これは私たちが知っている世界の何よりもすばらしい偉大なすばらしさを現わすのです。詩篇19篇でも同じようにそのことが告げられています。「**天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。：2 昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。**」と、神の偉大さが告げられないところはどこにもないと言います。神が造られた天、そして、地、すべてが神のすばらしさ、栄光を現わしている。

(2) 小さな子どもたちの口によっても現わされている

けれども、天のすばらしさを言った後で、ダビデは最も小さな赤子の口を示します。2節「**あなたは幼子と乳飲み子たちの口によって、力を打ち建てられました。**」それは、あなたに敵対する者のため、敵と復讐する者とをしずめるためでした。」、見て分かるように、神の偉大さ力強さは天において示されているだけでなく、小さな幼子の口によっても現わされると言います。「**幼子と乳飲み子たち**」と使われていることばは、まだ授乳が終わっていない赤ちゃんのことです。このような小さな赤ちゃんは全く力のない自分では何をすることもできない者ですが、彼らの口によって敵を治めることができる、鎮めることができるのです。イエスはマタイ21章でこのみことばを引用します。十字架に架かる前、エルサレム入城のときにこのことばを使うのです。人々はイエスの前に上着を敷き木の枝を置いて、イエスはそこを進行で行かれます。そして、子どもたちが宮の中で「**ダビデの子にホサナ**」と叫んで神をほめ称えるのです。けれども、パリサイ人たちはそれを見て非常な苛立ちを覚えて、どうぞ彼らを静めてくださいとイエスに願います。でも、その時にイエスは確かにそうかもしれないけれど、あなたたちは読んだことがないのかと言って、今読んだこの8：2のことばを引用されるのです。「**あなたは、子どもたちが何と言っているか、お聞きですか。**」イエスは言われた。「**聞いています。『あなたは幼子と乳飲み子たちの口に賛美を用意された。』とあるのを、あなたがたは読まなかったのですか。**」(21：16)。最も力をもっていた宗教的リーダーたち、イエスの敵たちが、小さな子どもたちのそのことばによって沈黙へと鎮められたのです。この神の偉大さが記されている1-2節で、ダビデは初めに天における偉大さを示しました。そして、同時に、幼子たちの小さな低い口によっても示されていることを教えたのです。大きな壮大なことと小さな身近なこと、全く両極端な比較の中でそれらは同じように神の力強さを私たちに示しているのです。けれども、それよりもさらにすばらしい宣告があります。そのことは3-8節に記されています。

2) 神の偉大さは心を変えられた人間のうちに現わされる

ダビデは神の力強さを天のすばらしさと小さな幼子の口によって現わすことから始めました。そして、3節から同じことをするのです。まず、天空のすばらしさを、そして、人間たちによって。神のすばらしさが天空によって現わされることは非常に大きなものですが、それよりもすばらしいことは心を変えられた人間のうちに現わされるというのです。3節に「**あなたの指のわざである天を見、あなたが整えられた月や星を見ますのに、**」とあります。ダビデはあなたの指のわざであるあなたの天を…と言います。ダビデがここで強調していることは、天地の創造のわざは神個人のわざである、神ご自身がしたことだということです。この宇宙は壮大なものです。けれども、それを造られたお方はそれよりも遥かに偉大なお方です。なぜなら、原因は常に結果よりも大きなものであるからです。ここでダビデは「**あなたの指のわざ**」と言いますが、もちろん、神には指はありません。詩的な表現を使っているのです。彼は神のみわざを人間が理解できる表現をもって表わしているのです。ここでダビデは夜に見ることができなものしか表わしていません。「**月や星を**」と言って太陽については触れていません。なぜなら、昼に天を見るよりも夜に満天の星を見るときに、私たちは神の偉大さをより身近に感じるからです。こんな偉大なこんな

すばらしい壮大な天空を造られた神が、いったいどうして私たちに目を留めることをするのでしょうか？それがこの詩篇の著者が疑問を抱いて、私たちに告げていることがらです。ですから、4節で「**人とは、何者なのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。人の子とは、何者なのでしょう。あなたがこれを顧みられるとは。**」と言うのです。ここで興味深いことは、ダビデは二つの違うことばをもって人を表わしていることです。(1) **人とは**=「**人とは、何者なのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。**」、彼はここでは「エノシュ」というヘブル語を使います。私たちはこのことばに創世記4章で最初に出会います。

4章にはアダムとエバが子どもをもうけたことが記されています。カインとアベル、カインがアベルを殺した後に神はアダムとエバにセツをお与えになります。セツというのは「任命された者」という意味がありますが、それはアベルの後任命されて神がアダムとエバに与えた子どもだからです。そして、このセツに生まれる子どもが4章の最後に記されていますが、その子どもの名前がエノシュと言います。そして、エノシュという人物についてその後にはひとつの記事が記されています。4：26「**セツにもまた男の子が生まれた。彼は、その子をエノシュと名づけた。そのとき、人々は主の御名によって祈ることを始めた。**」

このエノシュが生まれた後に人々は神を「主」という名で呼ぶようになったのです。なぜ、このことばがそこに付け加えられているのでしょうか？この「エノシュ」という名前は治療することができないほど病に侵されているという意味があります。アダムとエバの孫の時代になったとき、彼らは自分たちが不治の病に侵されているということに気付くのです。それゆえに、その時から彼らは主の御名を呼び求めるようになったのです。ですから、ここで「**人とは、何者なのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。**」というのは、このように不治の病に侵された、罪の中にあって癒されることのない者にどうしてあなたは心を留めてくださるのでしょうか？と言うのです。この同じ名前がエレミヤ17：9に出て来ます。「**人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。**」、この「直らない」ということばがそうです。これがイエス・キリストをもたない人間の状態なのです。

(2) **人の子とは**=2番目に「**人の子とは、何者なのでしょう。あなたがこれを顧みられるとは。**」とあります。ここで使われている人の名前は「アダム」です。これは「土から生まれた者」という意味です。土から生まれて土に帰ると聖書は教えています。ここでこの著者が言っていることは、神の偉大さは天地の創造を見て理解したときに、どうしてあなたは私のように不治の病に侵されていて、単に土から生まれて来たに過ぎないこのような者に心を留めてくださるのですか？と疑問を抱くのです。時に応じて、ロケットが宇宙にあるスペースステーションにたどり着くときに、地球の写真を地上に送ってきます。私はその写真の中に大陸を見ようとしますが、時々、ここにカリフォルニアがあると見つけます。その中の小さな点くらいのところにロサンゼルスがあると想像します。その小さな点の中には1500万人位の人が住んでいるのです。そして、その中のひとりである私の髪の毛の数を神は知っておられるのです。そして、神は私がどれくらいの人生を生きて行くのかということもすべて数えられています。神は私の名前を知っておられます。「**あなたの指のわざである天を見、あなたが整えられた月や星を見ますのに、**」、不治の病に侵されてどうしようもない人に対して目を留めるなんてどういうことでしょうか？土から生まれたに過ぎない者をあなたが顧みられるとはいったい何なのでしょう？

そして、5節はすばらしい響きをもって私たちに語り告げています。「**あなたは、人を、神よりいくらか劣るものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせました。**」と、この詩篇のクライマックスに到達します。人間は4節に記されているそのような状況に置かれているにも関わらず、それにも増して、神はこの人間に栄光と誉れの冠をかぶせるのだと言うのです。人は神の似姿に造られました。全世界と比べて私たちは非常に小さな存在です。この「**冠をかぶらせ**」るという表現は、王家に生まれてその王冠を相続するというのではなく、贈り物としてこの冠が与えられたという意味のことばが使われています。あなたは冠が与えられてすべての地を治める者として立てられたのです。創世記1-2章を見て分かるように、神はこの世界を創造された後、その被造物すべてを人間の支配下に置かれました。けれども、これは今の私たちの生涯に起こっていることでしょうか？ヘブル人への手紙2：5から見てください。「**5 神は、私たちがいま話している後の世を、御使いたちに従わせることはなさらなかったのです。**」と言って、今、私たちが読んでいるこの詩篇の8篇を引用するのです。「**6 むしろ、ある個所で、ある人がこうあかししています。「人間が何者だというので、これをみこころに留められるのでしょうか。人の子が何者だというので、これを顧みられるのでしょうか。」**」人は罪を犯しました。それゆえに、神が人にこれを達成しなさいと与えられた目的は、罪によって制限を受けています。それゆえに、人は被造物を治めるのではなく、被造物が私たちに治めるようになってしまいました。人はその支配権を感ずるものに譲ってしまったのです。Iヨハネ5：19を見ると「**私たちは神からの者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。**」と、この世の支配権は悪魔に渡されていると。けれども、それはいつまでもそのままであり続けるわけではありません。いつの日か、この支配権は人に与え直されるときが来るのです。ヘブル2：9を見ると「**ただ、御使いよりも、しばらくの間、低くされた方であるイエスのことは見えています。イエスは、死の苦しみのゆえに、**

栄光と誉れの冠をお受けになりました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。」、イエス・キリストはこの地上に人となって来られ、私たちの身代わりとなって死んでくださった、それによって彼は私たちを悪魔の支配権から買い戻し、私たちについての日かすべてを治めるという支配権をもう一度渡すために、そのことをしてくださったのです。それゆえに、イエス・キリストを信じる信仰をもつ者たちには、こののろいは覆されて変えられるのです。イエス・キリストが再びやって来られて千年王国の時代になったとき、私たちイエス・キリストを信じる信者たちは、彼とともにこの地上を支配する者となるのです。黙示録5：9－10にはこのように記されています。「**彼らは、新しい歌を歌って言った。「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、：10 私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。」**」。あらゆる部族、国語、民族の人たちがイエス・キリストの中にあるゆえにすべての地上を治めるのです。

ですから、この詩篇の著者は「**：9 私たちの主、主よ。あなたの御名は全地にわたり、なんと力強いことでしょう。**」と言ってこの詩篇を閉じるのです。彼は不治の病に侵されていたのです。けれども、神は彼を贖ってくださるのです。神の力強い恵みのみわざ、イエス・キリストによって…。チャールズ・ウェスレーが讚美歌を書きました。それは「**いったいどうして？**」というタイトルになっていますが、その最初の節は今学んできたことを要約しています。このように言います。「私が救い主である方の血を受けるような、どうしてそのような存在であるのでしょうか？私のために彼は死んでくださった。いったいなぜそのような苦しみを彼は受けなければならなかったのでしょうか？私のために彼は死を追い求められました。何とすばらしい不思議な愛なのでしょう？いったいどうしてそのようなことが起こり得るのでしょうか？私の神であるこのお方が私のために死ななければならぬなんて。」。

神の偉大な賜物であるゆえに、どうぞ皆さん、その恵みに喜びを覚えて、毎日、神に感謝をささげ続けてください。